



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎(026)236-2531

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

# 中部の森林



熱心に説明を聞く教職員

## 教室を飛び出して緑の中へ

### 教職員を対象に森林・林業体験学習会を開催

(P 2に関連記事)

|      |                                  |
|------|----------------------------------|
| 主な項目 | ○教職員を対象に森林・林業体験学習会を開催 ..... P 2  |
|      | ○各地からのたより ..... P 3              |
|      | ○各地で名古屋シティ・フォレスターを受け入れ ..... P 7 |



## 教職員を対象に 森林・林業体験学習会を開催

「指導普及課」中部森林管理局では、学校における「総合的な学習」の本格的な実施に伴い、森林・林業体験学習などの指導者となる教職員の方々に森林・林業に対する知識を深めていただき、総合学習のプログラム作成の参考にさせていただくため、各地で森林・林業体験学習会を開催しました。今後、学校における総合学習の中で、森林の大切さが多くの子供たちに伝わっていくことが期待されます。

### 「城山史跡の森にて」

「木曽森林環境保全ふれあいセンター」  
八月四日、木曽森林環境保全ふれあいセンターと木曽地方事務所が合同で、木曾谷地域の小・中学校教職員を対象とした森林・林業体験学習会を、十九名の参加を得て実施しました。

午前中は、木曽福島町の「城山史跡の森」で、遊歩道沿いでの動植物の観察、森林の機能、木材の活用、木曾谷における森林と林業などの学習を行い、午後からは、上松町の「赤沢木材利用等展示エリア」で間伐作業を行いました。作業に先立ち、「作業の安全確保」や「のこぎり、鉋などの道具の使用方法」の説明を受けた後、間伐作業を実施しました。

参加した教職員からは、「普段は山に入る機会も少ないので、自然観察、間伐作業などすばらしい体験ができた。」という意見が聞かれました。



森林機能の説明

### 「針ノ木遊歩道にて」

「指導普及課」八月十一日、中信森林管理署管内において、大町市、北安曇郡内の小・中学校の教職員を対象に森林・林業体験学習会を実施しました。

当日は、大町・北安曇地域から十名の教職員が参加し、局・中信署職員がインストラクターとなって、午前中は「針ノ木遊歩道」で森林の機能、植物の観察等を実施、午後は、鹿島山国有林においてスギ人工林の間伐や木工クラフト作りを体験しました。

参加した教職員からは、「木を植えるだけでなく、木を伐ることの大切さ、間伐材の利用法を考える良い機会となった。子供達にこれから森の大切さ、楽しさを知らせていけたらと思います。」、「もっと森や林で生徒が夢中になる活動も教えて頂きたいと思いました。」との意見がありました。



木工クラフト体験を夢中になって

### 「定光寺自然休養林にて」

「名古屋事務所」八月一、二日、「じょうこうじ響の森」において、瀬戸市小学校教職員を対象にした森林環境教育研修会を、二十名の参加を得て実施しました。

初日の午前中は、森林交流館職員の指導による、森林のクラフトを実施しました。ヒノキ間伐材を利用した輪切り板の上に、大小様々な輪切り板や木の枝、ドリングリなどを貼り付け、オリジナルの壁

掛けを作成後、丸太切り体験や鉛筆立て作りを行いました。

午後からは「地球温暖化防止と森林の関わりについて」山崎所長から説明をしました。その後、森林散策を実施し、森林の公益的機能や植物等の説明を受けながら、約一時間半森林浴を体験しました。

二日目の午前中は、間伐作業の森林整備を行い、普段体験する機会の少ないノコギリを使用する伐採を体験すると共に、森林づくりについて考えました。

午後からは、愛知県ネイチャーゲーム協会青山裕子理事長の指導により、ネイチャーゲームの概念を学んだ後、いくつかのゲームを体験し、五感を使い自然の中で遊ぶ楽しさを学びました。

二日間とも暑い中での研修会でしたが、参加された方々からは、「充実した内容だった」、「学校での野外活動に取り入れていきたい」、「地球温暖化防止の観点からも林業の大切さが分かった。」などの声が聞かれました。



間伐作業を真剣に

## 各地からのたより

### 分収造林地の

#### ウルシ掻き作業始まる

〔木曾署〕木曾署贄川森林事務所管内の福沢国有林一六〇五い林小班には、昭和五十八年に旧檜川村（今年度町村合併により塩尻市）と契約を締結したウルシ分収造林地（面積一・一三畝）があります。

七月七日、この造林地からのウルシ原液を採取するための前段として、木曾漆器協同組合（本山俊之理事長）主催による、造林木育成と採取作業の効率向上のための除伐と下刈が実施されました。

植栽後二十一年を経過した昨年に第一回目のウルシ掻き作業に続いて今年も実施するものです。

樹液採取の方法には「養生掻き」「殺し掻き」の二つの方法がありますが、「養生掻き」は木の幹の形成層に刃物で傷を付けることにより、木自身が傷を癒すために出す液を乾かない間に採取する方法で、最終伐採時までに数年毎に数回の採取を行います。また、「殺し掻き」は、文字どおり分収木伐採の時に実施しますが、当面は前段の方法で、毎年数十本ずつ掻いていきます。

(3) 平成17年8月  
 昨年は、三十本のウルシの木から五日間隔で十四回採取し、総量二・四一kg

（価格にして約七万円）を収穫しました。この採取されたウルシの品質は、石川県工業試験場による分析結果では国内最高位にランクされる良質な物と判定され、乾燥が早くてしまりが良く、つや出しに最高であるとのことでした。

関係者からは、現在使用している国内産ウルシに混入し、品質向上用（サシウルシ）として使っていくとのことであり、大きな期待が寄せられています。

良質なウルシが採れるのは、南向きの斜面で、水分が十分得られるとともに水はけが良いことが条件とされています。

当日は塩尻市との合併初年度であることから、市職員も初めて参加し、組合員・支所職員・木曾高等漆芸学院訓練生等、約三十名が参加して急斜面での作業に大粒の汗を流しました。



下刈り作業の様子

### 遊々の森で下刈体験と森林学習

〔中信署〕七月二十五日、松本市の御殿山国有林遊々の森において、本郷小学校五年生七十一名が下刈作業の体験と森林学習を行いました。

当地は、平成十四年三月に百七十畝の大規模山林火災（国有林は六八畝を焼失）があった場所で、平成十五年に豊かな森林の再生を願って植樹祭を行い、本郷小学校の児童や地元の関係者等でコナラやヤマザクラなどの広葉樹を植林した山です。

同小学校の下刈作業体験は昨年に続き二回目で、児童たちに郷土の森林づくりへの関心を育ててもらうことを目的に、当署と松本市、本郷地区山づくり推進連絡協議会の共催で行っています。

当日は、梅雨明けの好天で暑い日となりましたが、児童たちは学校から徒歩で四十五分の山道を登り集合しました。到着後、「はじめの会」を行い、主催者を代表して田中署長より児童たちに、「草木や虫などの観察や自然を楽しみながら作業してください。」とのあいさつがされ、続いて、森林官が鎌の使い方やウルシ、ヌルデのかぶれやすい木や蜂に対する注意事項を説明し、作業を始めました。児童たちは、各班に分かれ、指導者の大人から植栽木や切つてはいけない木、刈り払わなくてはならない草木、刈り方

などを教わりながら、一時間ほど下刈を行いました。

下刈終了後、森林ふれあい係長が森林教室を行い、小さな火から同小学校校庭の三百個分の樹齢百五十年以上のアカマツの森が焼失したこと、木が生長し、元の山にもどるには長い年月がかかること、傘を使って木を育てるためになぜ下刈が必要なのか、さらに森林の働きについて実験を交えながら分かり易く解説しました。

数日後、児童たちから、感想文が署に届きました。感想文から、「山火事でのくらい焼けたか聞いてびっくりした。」「山に自然が戻るのは何十年後だけど、低学年も下刈作業を引き継いで元の山になってくれればうれしい。」「初めてだったけど、鎌を斜めに引く張るとスパッと切れて楽しかった。」「草がボーボー生えていて大変だと思ったけれど、みんなできると頑張ってやることとて、もきれいにすることがわかった。」「など、児童たちが真剣に体験学習してくれ、ことが伺えました。



下刈体験で指導を受ける児童たち

### 立山で 移入植物の除去作業を実施

「富山署」七月二十日、ブナ坂国有林内の立山黒部アルペンルート沿いでボランティアによる、セイヨウタンポポやオオバコ等の低地性、外来性植物の除去作業を実施しました。

当日参加したボランティア十名は、これまでの作業等での顔なじみの方が多く、和やかな雰囲気の中で、OBの松久さんから除去植物の説明や除去の方法を学んだ後、各自が「外来植物除去中」のゼッケンを着用してシヤベルや草取鋏を手に、弘法から室堂平周辺の道路沿いで作業を行いました。

室堂平では、チングルマやイワカガミ等が咲くなかでセイヨウタンポポ等の除去を行っている観光客から「ご苦労さま」との声をいただき、気持ちも新たに熱心に作業は続き、当日の作業でセイヨウタンポポやシロツメクサ等約千五百株を除去しました。



移入植物の除去の様子

ルート沿いでは、これまで県や関係機関、山小屋関係者等が協力し、移入植物の除去作業を実施しており、沿線の移入種は少なくなってきたとの声も聞かれますが、これからも北アルプスの雄大な景色のなかでの貴重な植物を守るため継続したいと考えています。

### 「うなづき湖フェスティバル」 開かれる

「富山署」連日の猛暑が続く八月七日、富山県宇奈月町の宇奈月ダムに於いて、「うなづき湖フェスティバル2005」が開催されました。

このうなづき湖フェスティバルは「森と湖に親しむ旬間」に併せて行われているもので、今回から新たに地域の方々も企画立案に参加し、主催団体と地域とが協働で開催するイベントとなりました。

当日、ダムサイト周辺では国交省実行のダム見学や遊覧船体験乗車などが行われ、富山署はクラフト教室の指導に当たりました。

クラフト教室は子供たちには大変好評で、当日も朝九時の開始前から続々と家族連れなどが訪れ、各々工夫を凝らした作品を作りました。なかには、親の方が一生懸命で童心に返って取り組む様子も見受けられ、親子共同で作品を作ることの素晴らしさに微笑ましくなりました。子供たちは、事前に用意した見本には

目もくれず、奇抜なアイデアで作品を作るのにはただただ感心し、見習うものがあつたと感じています。

当署としても、子供たちがうれしそうに木とふれあい、自然と親しむ姿を見て今後もクラフト教室を継続したいと考えております。



子供も大人も一生懸命に

### 高校生が国有林の現場で 職場体験実習

「飛騨署」八月八日から十一日までの四日間、飛騨署において岐阜県立飛騨高山高校環境科学科二年生の三名が職場体験実習を行いました。

当署では二回目の受け入れであり、前回の実習結果や事前の実習生の希望に基づき現場作業の実習を中心にカリキュラムを組みました。

一日目は間伐調査及び間伐木の伐倒、二日目は治山溪間工の平面・横断・縦断

測量、三日目は森林ふれあいパトロール、四日目は林道の草刈り及び除伐作業を森林官や担当職員の指導のもとに実習を行いました。

間伐作業では、伐倒方向を確実にするための、受け口切り、追い口切り、つるの残し方等の指導を受け、直径四十センチもあるスギに対し緊張した面持ちでチェーンソーを操作していました。

また、刈払機での草刈作業では初めてとは思えないほど、アクセルのふかし具合や操作桿の振り方もさまになつており、指導者から「上手い！」との言葉がありました。

実習終了後の感想を兼ねた挨拶では、「学校では習わないいろんな体験ができて良かった。これらの体験を、今後の学校生活や人生に生かしていきたい。公務員試験を頑張りたい。」との声が聞かれました。



緊張して間伐作業

### ふれあいの郷利用者が

### 自然散策会

〔東信署〕七月三十一日、「湯ノ丸・高峰自然休養林」内で長門町主催により、北白樺ふれあいの郷入居者を対象に自然散策会を実施しました。

一行は、東信署職員の案内で高峰高原を出発し、水ノ塔山から籠ノ塔山（標高二、二二七メートル）を経て池ノ平湿原への行程で、自然散策を楽しみました。

参加者は、高山植物の花が咲き競う中、当署職員から説明を受けながら、周囲の樹木などを興味深く見て歩く中で、「このような機会がないとふれあいの郷にある樹木や草花の名前もわからなかった。これからは興味を持って接することが出来ます。」等の喜びの声が聞かれ、次回再会することを誓い合っていました。



東籠ノ塔山頂にて

また、最後に署長から、ふれあいの郷の入居者にも、樹木や自然環境に関心を持っていただくとともに、当署で実施している「自然保護パトロール」への、理解と協力をお願いして自然観察会を終了しました。

### 「木曾のヒノキの家 見学ツアーⅢ」開催！

〔販売課〕七月三十一日、「木曾のヒノキで家をつくる会」の今年度第一回目の企画となる「木曾のヒノキの家見学ツアーⅢ」が、会員など約六〇名の参加のもと開催されました。

当日、JR塩尻駅に集合し、バスで「木曾のヒノキで家をつくる会」第四号の住宅となる塩尻市の八木邸へと向かいました。

八木邸は、閑静な新興住宅地に十月の完成に向けて着々と建設が進んでいました。

建築に使用する木材総使用量は三〇立方メートル、土台・柱・束は木曾のヒノキを一〇〇％使用し、その他、窓・枠・造作材等を含めると、木材総使用量の四〇％に当たる十二立方メートルに木曾のヒノキが使用されます。

また、梁には県産のアカマツが使用され、今年度、県が創設した「信州ふるさとに住まい助成金」（県産材が五〇％以上使用）が活用されています。

八木さんは、昨年度の「木曾のヒノキの家見学ツアーⅡ」に家族で参加し、長野市の第三号邸の杭全邸を見学した際、「木曾のヒノキで家を作る！」ことを決意されました。

八木邸の特徴は、①無垢の木をふんだんに使用し、窓枠・壁・腰板だけでなく構造材・柱などが見えるように努めている、②耐震面では筋交いを通常の1.5倍から2倍入れ、ボルトによる締めを行っている、③プレカットは使わず大工自ら墨付け、木材の加工を行い、加工場では八木さん家族がくるみ油を用いて丸太梁を磨くなど施工者と一体になって家造りに積極的に参加しています。八木さんの「家造りに対する熱意に」参加者の多くから「若いのにとてもしっかりしている。」「家造りに信念、拘りを持っている。」等の声が聞かれました。

午後は、木曾福島町の第五号住宅のM邸を見学しました。M邸は、築約二〇〇年の二階建の古民家で、建築面積一七四平方メートル、延べ床面積二五六平方メートル（約七八坪）で、今回再生するのは約三分の二に当たる五二坪です。

この古民家再生は四月初めから解体作業、五月にはよろび直し（歪みの修正作業）及び基礎・土台のやり直し等の作業が進められ、十月の完成を目指し工事が進められています。木材の使用量は二四立方メートル、内木曾のヒノキは柱等の構造材を中心に床・壁・天井材等に一九

立方メートル（木材使用量の約八割）を使用しています。M邸は古民家再生で古材、新材が入り交じり、時代を感じさせながらも現代に見事に調和した趣ある建物に生まれ変わります。

その後、木曾署上松土場で、「木曾のヒノキの家」で使用されるヒノキ等を見学し、一号邸である日義村の中邸を見学し帰途につきました。



建築中の第四号八木邸



古民家再生中の第五号M邸

### 「森林って楽しいね!」 第四回森林ふれあい講座

「名古屋事務所」七月三十一日、「じょうこうじ響の森」において、第四回森林ふれあい講座「ネイチャーゲームとウォークラリーで森林を楽しもう」を実施しました。

当日は、あいにくの天気でしたが、小学生から大人まで十数名の参加者が集まり、愛知県ネイチャーゲーム協会青山裕子理事長の指導のもとネイチャーゲームを楽しみました。

午前中は、自己紹介を兼ねて生きものの特徴を知る「動物交差点」、生きものと木の実などの食べ物や森の関係を知る「ごちそうはどこだ」、観察眼を養うために自然の中で人工物を探す「カムフラージュ」等のネイチャーゲームを行い、様々な感覚を使って自然のしくみや知識を学びました。

午後は、チクチクするものや動物の落とし物などを探しながら、教箇所に設けられたポイントで質問をクリアしながらビンゴマス埋めていくビンゴ形式の「ディスプレイサウンドの森」を行いました。お茶を飲んで「その原料は何?」、マツボックリを「かじった犯人はだれ?」、間伐は「どうして必要なの?」などの質問に対し、実際に飲んで・見て・触って・聞くなど、感覚をフルに活用し、自然の不思議さや森林の大

切さ等を学びました。最後に参加者の方々から、森林(もり)って?の後に一言づつ、言葉をいただき、森林に対する認識を深めました。



親子で一緒に

### JICA 国別研修を受入れ 中国の研修生八名

「名古屋事務所」八月四日、名古屋事務所では、独立行政法人国際協力機構(JICA)の受入研修事業の日中林業生態研修センター計画プロジェクトカウンターパート研修(林業行政・造林事業管理)の一部を受け入れました。

山崎名古屋事務所長からは、中部森林管理局管内の概要説明が行われました。また、計画課飯村流域管理指導官から、中部森林管理局管内の「国有林の地域別森林計画の策定方法」、「地域別の森林計

画の事例紹介」等について講義が行われました。

当日は、名古屋でもことのほか暑い一日となりましたが、八名の研修生は、造林事業分野、林業行政分野のエキスパートとして熱心に聴講され、活発な質問に予定時間を超えてしまうほど内容のある研修となりました。



熱心に聴講する中国の研修生

### 人のうごき

#### 林野庁人事(抄)

八月一日付

- ▽農林水産省出向(農村振興局農村政策課課長補佐(山村振興班担当)) 中部森林管理局企画調整室監査官(伊那谷総合治山事業所長) 石田 良行
- ▽中部森林管理局企画調整室監査官(伊那谷総合治山事業所長) 外務省経済局

経済安全保障課課長補佐 村上 卓也

#### 中部森林管理局人事

八月一日付

- ▽局販売課併任(販売担当)(企画調整室監査官兼職員厚生課(労務担当)) 間瀬 國廣

- ▽林野庁出向(職員・厚生課給与・手当班給与管理係長) 局職員厚生課企画係長 永瀬 貢

- ▽局職員厚生課企画係長(局職員厚生課安全衛生推進室安全衛生係長) 上田 喜幸

- ▽局職員厚生課安全衛生推進室安全衛生係長(中信署奈川森林事務所森林官) 林 満

- ▽中信署奈川森林事務所森林官(中信署治山課姫川治山事業所) 坂井 晃

- ▽富士署治山課治山第一係長(飛騨署治山課治山第二係長) 田丸 清彦

- ▽飛騨署治山課治山第二係長(富士署治山課常願寺川治山事業所主任) 坂口 邦明

- ▽富士署治山課常願寺川治山事業所主任(富士署治山課治山第一係長) 吉田 一

- ▽退職(木曾署南木曾支署阿寺森林事務所) 南澤 泰裕

- ▽退職(死亡)(木曾署笹川森林事務所森林官) 松原 和幸

七月二日

## 各地で名古屋シテイ・フォレストラーを受け入れ

### 千畳敷で水路・登山道整備

【南信署】七月十三日、駒ヶ根市の赤穂国有林二一〇林班、通称木曾駒ヶ岳の千畳敷において、名古屋シテイ・フォレストラーの皆さんなどによる、水路・登山道整備を実施しました。当日は、梅雨も中休みとなり、絶好の天候に恵まれ、シテイ・フォレストラー十二名と地元山岳ボランティア三名が参加しました。

作業場所となった水路は、平成十一年度に、当時の駒ヶ根森林管理センターが設置したもので、昨年の度重なる台風の襲来により一部が埋まってしまい、あふ



一生懸命に土砂の除去作業

れ出た土砂が、登山道や植生にも影響を及ぼしていたところです。周辺は、貴重な高山植物が生育している場所であり、重機等による工事が不可能なことから、ボランティアを募り、手作業により水路からの土砂の運び出しや登山道への敷きならしを行ったものです。

参加者は、五十歳代から八十歳代の方々と、高山帯で空気が薄いという慣れない環境条件下で下でしたが、周囲の高山植物に気を遣いながら、ツルハシやジョレンで土石を掘り出し、箕で運び出すなどの作業に、黙々と取り組んでいました。

当初、土砂の状況から、一日で終了できるとの心配していましたが、参加者の皆さんのおかげで、予定の三時頃までには概ね終了し、水路や一五〇メートルに亘る登山道が見違えるように整備されました。

当日は、南アルプスをはじめ、遠く富士山も眺めることができ、作業地周辺では、チングルマ、イワカガミ、コバイケイソウ等の高山植物が咲き始めていました。参加者は、作業の合間に可憐な高山植物やアルプスを眺め、駒ヶ岳の自然を満喫していたようです。



作業を終えて記念写真

## 天生県立自然公園でオオバコの除去作業

【飛騨署】七月二十二日、名古屋シテイ・フォレストラー事業により天生国有林において、オオバコの除去作業を行いました。

里山植物であるオオバコの種子が登山靴等に付着して遊歩道沿いに落ち繁殖しているもので、貴重な在来種の生育を妨げていることから、種が実る前に除草を行うものです。

朝五時三十分には家を出たという愛知県隊員や富山県の隊員ら十五名が参加し、当署職員による天生県立自然公園の

概要と作業内容の説明の後、一時間ほど登山道を登った箇所から作業を行いました。

二股の除草器具で根こそぎ抜き取る作業で、市街地では猛暑でしたが現地は木陰での作業で能率も上がり「来年度の作業分も残しておこうか。」との声も聞かれました。

作業終了後、湿原を案内しましたが、定期的にニッコウキスゲやワタスゲが若干咲き残っている程度でした。しかし、大きなミスバシヨウの葉が見られる高層湿原や一抱えもあるブナの木熊の爪痕等に感動し、「楽しみながらの作業ができたけれども、春の湿原植物の観察や紅葉の時期のガイドツアーも計画してほしい。」との要望がありました。

帰りは疲れた足取りではありませんでしたが満足した様子で、それぞれオオバコを入れた大きな袋を両手に持って下山しました。



オオバコの除去作業の様子



ツブラジイ林の上に見える岐阜城

「岐阜署」四十万都市岐阜市に  
おいてひとときわ目立つ急峻な独  
立した山塊が、金華山国有林

標高三一九m)です。山頂には岐阜市のシンボルとなつている岐阜城(昔、稲葉山(因幡山)と呼ばれ)がそびえ、眼下には清流長良川が流れ、晴天時には遠く伊勢湾を眺望することができます。

金華山国有林は、シイ、カシ等照葉樹林の中にヒノキ、マツ等の常緑針葉樹が混成し、年間を通じて緑に覆われ、金華山を代表する樹種「ツブラジイ」が開花する五月頃には、山全体が金色に光輝く時期があり、金華山の名前の由来の一つとも言われています。

都市の中心部にこのような自然林が残されているのはきわめてまれなことであり、織田信長が居を構え天下統一の一步を期した歴史的な山ということから代々大切にされ、現在も森林ボランティア団体等の協力により金華山国有林の保全整備が行われています。

山頂までは手軽なロープウェイのほかにはハイキングコースとして

山頂を目指したいくつもの登山道があり、岐阜市の中心近くにあることからビギナーから健脚者まで多くの市民に親しまれています。

また、昆虫、野鳥の宝庫でもあり、貴重な自然を生かし、森林教室、職場体験学習など自然観察が盛んに行われています。

アクセス

JR岐阜駅から岐阜公園前バス停下車  
ロープウェイで三分、徒歩七分で頂上



長良川からのぞむ金華山

# 風景紀行

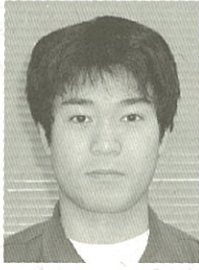
## 岐阜のシンボル 金華山

岐阜森林管理署  
(各署の景勝地等を紹介)

### 岐阜のシンボル金華山

## 行事・イベント等の予定

- ◎防災訓練  
9月1日 中部森林管理局管内
- ◎木曾川・森づくりin赤沢  
9月3日 木曾署管内
- ◎名古屋シティ・フォレスト事業  
9月3日 愛知事務所管内  
9月29日 南木曾支署管内
- ◎森林ふれあい講座  
9月10日 愛知所管内
- ◎自然と人間との共生シンポジウム  
9月11日 富山署管内
- ◎山之坊概成検討委員会  
9月11日 中信署管内
- ◎森林倶楽部  
9月14・15日 岐阜・飛騨署管内
- ◎局長会議  
9月15・16日 林野庁
- ◎流域調整官会議  
9月15・16日 下呂市
- ◎署長会議  
9月21・22日 中部森林管理局
- ◎事業担当等部長会議  
9月29・30日 林野庁



故 松原 和幸 氏

### おくりやみ申し上げます

木曾署笹川森林事務所森林官 水産技官松原和幸氏(24才)は7月12日にご逝去されました。

同氏は、平成11年4月に中部局販売第一課に採用になり、その後、木曾署業務第一・三課、平成16年4月からは木曾署笹川森林事務所森林官として勤務し、これからの活躍が期待されていました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。